

数学教室だより

## 岡山大学理学部数学教室

### 1. 概要

岡山大学は、戦前の旧制第六高等学校、岡山医科大学、岡山師範学校など数校と2研究所を包括して昭和24年に理学部を含む5学部からなる総合大学として発足し、現在11の学部・附属病院・附属図書館、資源生物科学研究所（旧大原農業研究所）・地球物質科学研究センター（旧温泉研究所）等を加えた国立大学法人になっています。発足当時の理学部設立に際しては、仁科賞の名でも知られる六高出身の物理学者・仁科芳雄博士の貢献が大きく、理学部の建物の正面玄関脇には博士の像が置かれています。キャンパスは、遠隔地の研究所等のほかは大部分が岡山市内に位置し、JR岡山駅をはさんで医歯系を中心とする鹿田地区と、本部棟ほか大多数が集まる津島地区に分かれます。理学部もその中心部に位置する津島地区キャンパスは、旧陸軍の第17師団の兵舎・兵器廠が置かれていた広大な敷地をほぼそのまま継承していて、数学教室の談話室の窓には近接する半田山がぼっかりと浮かびます。この山の一角には戦前の一時期に午砲（どん）台が置かれ市民に毎日の昼時を告げていたそうですが、大学正門に続く銀杏並木の奥にたたずむ大学時計塔を懐に抱くようにして背後に連なる半田山の面長な姿は、キャンパス一帯に独特の何ともいえぬ長閑な雰囲気醸し出しているように思えます。津島キャンパスの南側には旧陸軍練兵場の広々とした敷地が市民の運動公園に様変わりして広がり、その南端から岡山駅まではもう徒歩で20分程度でしょうか。

### 2. 教育研究

理学部数学科は代数・計算数理科学、空間数理科学、解析・汎用数理科学という三つの大講座からなり、教授・助教授・助手あわせて十数人の構成員からなります。学部学生定員は一学年20名ですが、3年次編入生として4名が加わります。学生たちは入学時から数学科の伝統的授業（論法や、カントールの対角線論法など）を少人数クラスで苦労して学ぶうちに次第に打ち解けあい、卒業の頃にはかなりまとまったクラスになることが多いようです。昨年は夏休み前に、難関授業の単位が取れた元気のよい2年生たちが喜びのあまり中庭でビールかけをしている微笑ましい光景がみられました。

大学院は、今年度から部局化して大学院自然科学研究科先端基礎科学専攻数理

科学講座となり、環境理工学部の実用数理系の先生方と一緒にになりました。一学年の定員は修士12名、博士3名になっています。大学院部局化に伴い学生募集定員充足が昨今急にやかましくなりましたが、もともと少人数教育を特徴としてきた教室だけに急速な方向転換ができるわけもなく、対策に頭を悩ませなければなりません。

数学会の会員は、岡山大学では理学部数学科、環境理工学部環境数理学科、教育学部数学教育に分散しています。また分野によっては半田山東側の丘陵地帯に林立する岡山理科大学に所属する数学会員とも不定期セミナー等のため互いの行き来があります。

### 3. 図書室、事務室、教室予算など

数学の中心設備は図書文献資料であるという位置づけから、教室予算の大部分は図書購入、文献複写代、数学紀要発行にあてられます。昨今は厳しい状況が続いていて、必要なお金をどこから切り取ってくるかが必ずしも自明でない問題になりつつあります。数学事務室は、現在パートタイムの方が一名おり、多くの事務書類の切り盛りから図書登録、新着雑誌の受付、共通スペースの談話室の整理整頓から学部事務室との連絡などを盛りだくさん引き受けてもらっています。ときには手が足りなくなり、学科長・教授陣も雑務を手伝います。

数学科図書室は3階数学事務室の隣に二部屋続き、少し離れて資料室、2階には数部屋続きをうちぬいた書庫と、小さな教室としてはやや驚くほどの量の書籍と専門誌のバックログが蓄積されています。2005年から有名専門誌を含む主要数社の電子ジャーナル群が大学の方針として中央経費によるパッケージ契約に決まりましたので、これにともない教室予算による購入は電子化されていない少数のタイトルに絞れることになりました。今後は冊子体閲覧から電子媒体利用に切り替わるものが多くなりますが、2004年まで教室予算の赤字を押し膨大な量の数学専門誌冊子体が数学科図書室に蓄えられたので、ほとんどの専門誌が電子化されてきた今日では(パソコンが苦手なシルバー世代は除き)今後も特別に困ることはないでしょう。おかげでここ数年慢性的だった教室予算の赤字も昨年度ついに破綻寸前まで行きましたが、教室員が起死回生を期して水一滴漏らさぬ儉約体制で臨んだため、今年度末の決算では赤字を一旦解消し終える見込みです。もちろん数学教室をめぐる状況は依然として厳しいため、今後も特に財政面は十分に注意深く制御していく必要はあるでしょう。閲覧室で新着専門誌の紙のページをめくる楽しみが少なくなったのが残念ですが、教室予算に多少ゆとりができた分は、主要シリーズの数学書や各分野の数学単行本・学生用和書の購入にまわせることとなります。

#### 4 . 数学紀要

当教室では発足まもない昭和27年から英文専門誌 Mathematical Journal of Okayama University を (途中の休刊期を除いて) ほぼ毎年1巻ずつ発行していて, 昨年度で第46巻を数えます. 最近知ったことですが過去のバックログの中には, 作用素環の富田・竹崎理論の揺籃期の原著論文M.Tomita “Spectral theory of operator algebras I (1959), II (1960) なども含まれているとの注意が同僚から寄せられました。世界的な電子化の流れの中で, 当誌も紙媒体を堅持しつつPDF形式でのネット提供の試みも昨年度から始めました。 URLは <http://www.math.okayama-u.ac.jp/mjou/index.html> です。

#### 5 . 秋の学会準備

2005年の日本数学会の秋季総合分科会を岡山大学で開催します。大会委員長の佐藤亮太郎教授, 実行委員長の山田裕史教授を中心に, 当教室と環境理工や教育学部の数学会員が一致協力して現在, 準備を進めています。会場確保が終わり, プログラムや要員配置の細部の打ち合わせにと, だんだんと現実味を帯びてきた今日この頃ですが, 数学会の皆様のご理解と協力を賜り, 岡山における久々の一大数学イベントが無事に終わることを祈りつつ筆をおくことにします。

(文責:平成16年度学科長 中村博昭)